飛島営農受託部会

堅実な改善で誇れる産地に

飛島営農受託部会では30代から50代の水稲オペレーター6名が米や麦などの栽培を行っています。愛知県は麦の単収で全国一位を誇りますが、同部会が位置する海部南部地域は県内で最も単収が多い、日本で一番の地域で、令和4年度には全国平均を大きく上回る結果となりました。

産地の成長は土地の改良と経験の蓄積を毎年着実に進めることで実現したものです。米の裏作としてはじまった麦の栽培ですが、埋立地で海抜の低い飛島地域は地力に優れているとは言えず、水はけも悪いため、乾燥した気候で育つ麦の栽培に適した場所とは言えません。部会では土壌改良を目的に卵の殻をはじめとする有機肥料を積極的に使い、10年以上地力の維持・向上に努めています。また、排水についても部会で飛島村に呼びかけを行い、土地改良との連携により効率的に栽培環境の改善を続けています。さらに、農協が仲介を行う農地中間管理事業による農地の集積も進み、村のブロックローテーションにより効率的に栽培管理が出来る環境が整えられています。

部会ではこういった環境の整備と合わせて、生産者それぞれの経験や技術の向上を目指した毎年の視察研修や情報交換も行われています。5年ほど前から導入が始まった品種「きぬあかり」については栽培のノウハウが蓄積され、安定した収量が確保できるようになってきました。

部会長を務める尾串さんは「これからも設備や環境を整え、少ない人数でより広い面積の作業が出来るよう効率化を進めていきたい」と話します。飛島営農受託部会では、たゆまぬ努力と研鑽を続け、将来の担い手としてこれからも栽培を続けていきます。